

《 2002年 国連のメッセージ 》

世界中が不安定なこの時代ほどブッダの平和のビジョンがふさわしい時代はない、と事務局長、仏教のウーサクの日に寄せたメッセージで語る

5月6日、ニューヨーク(国連本部) 以下は、5月7日に祝われるウーサクの日に寄せるコフィ・アナン事務総長のメッセージです：

ゴータマ・ブッダの誕生と悟り、そして、入滅を記念するこの幸せな機会に私の心からの挨拶をお送りできることは大きな喜びです。

ブッダがかかげた気高く倫理的で人道主義的な理想は、力強い精神的伝統を誕生させ、2500年以上たった今でも何百万もの人々の生活を高め続けています。今日この日に、仏教徒は、世界各地で、ブッダが人類にもたらした慈悲と理解と相互の尊重というメッセージを喜ばしく祝います。

世界中が不安定なこの時代にあって、ブッダの平和のビジョン、人類の持つ最高の可能性のビジョンは、これまで以上にふさわしいと言えるでしょう。実際、もしも私達が、今日直面している多くの難題—平和と安全、開発、そして、私達の地球の環境保護という分野で直面している難題—に打ち勝ちたいと思うならば、私達は、視野が狭く短期的な自己利益という考えを超越して、もっと幅広い人間の社会全体の安寧が自分自身の安寧と同じくらい重要であると思えるような普遍的なものの見方へと自らを高めねばなりません。私達の一人ひとりが、より平和で公平で持続可能な将来への希望を分かち持っているのです。私達の行動は、個人としての行動も社会の一員としての行動も、その共通の夢によって導かれねばなりません。

このウーサクの日に、私達の生まれが、私達の人種が、私達の文化が、また、私達の信仰がどのようなものであろうとも、私達は皆、本質的に違いはしないということを思い出しましょう。何よりも、私達は共通の故郷を、そこで私達が共に生きなければならない小さくなりつつある惑星を分かち持っているのです。ですから、世界中の人々の共通の利益と調和に満ちた平和な共存に向かって一緒に活動しましょう。

皆様が素晴らしいウーサクを過ごされますようお祈り致します。

国連事務総長 コフィ・アナン

《 2003年 国連のメッセージ 》

事務総長、ウーサクの日に、人類に対する心配りというブッダのメッセージに耳を傾けようと世界に呼びかける

5月15日、ニューヨーク(国連本部) 以下は、5月15日にお祝いされているウーサクの日に寄せたコフィ・アナン事務総長のメッセージです:

ウーサクの日は、世界中の仏教徒が2500年ほど前に起こったブッダの誕生と悟りと入滅を記念する日であり、また、ブッダの生涯と教えが私達の今日の生活に与えてくれる教訓をよく考えてみる機会でもある喜ばしい日です。

ブッダのメッセージは平和と慈悲についてのものでしたが、それはまた、心配りについてのメッセージでもありました。すなわち、自分自身と自分の行動、そして、自分が住む世界のことを十分に意識しなさい、というメッセージでもあったのです。このメッセージは、人類の進む方向と運命について憂慮するすべての人々が真剣に受け止めるべきメッセージです。

私達が後に続く世代にもっと心を配らなければ、私達が引き起こす絶え間ない環境の悪化のために、後の世代は自分達の必要を満たすことができなくなる危険にさらされるでしょう。

もしも私達が消費者として、市民として、そして有権者として私達がなす選択が、私達のすぐ周りの社会だけでなく、はるかに広い世界と関わりを持っていることを理解しなければ、私達が住む地球という村は、必要以上に危険な場所であり続けるでしょう。

そして、もしも私達が、いかなる場所の貧困や紛争も私達の一人ひとりと関係しているのだということを認識しなければ、私達は、社会が調和に満ち幸福があまねくある世界の建設という私達が分かち持つ任務に成功しないでしょう。

このウーサクの日に、私は、皆様と共に、すべての人々が同じ人類の同朋に心を配ろうと努力する世界、かれらのことを意識し、思いやろうと努力する世界を願います。この願いを心に抱きつつ、皆様に心からの挨拶を送ります。

国連事務総長 コフィ・アナン

《 2004年 国連メッセージ 》

事務総長、仏教のウェーサクの日に寄せるメッセージで、異宗教間、異文化間の信頼を再構築する持続的な運動を求め

6月1日、ニューヨーク(国連本部)ー 以下は、6月1日にニューヨークで行われる“ウェーサクの日の国際的認知式典”へのコフィ・アナン事務総長のメッセージです:

このウェーサクの日の国際式典に私の心からの挨拶をお送りできることは大きな喜びです。

毎年この日に、私達は 2500 年ほど前のシッダールタ・ゴータマ・ブッダの誕生と悟りと入滅を記念し、世界の平和の探求に対して仏教がなしてきた様々な貢献に敬意を払います。

今年は、この式典をお借りして、多くの最近の出来事ー2001年9月11日のテロリストによる攻撃や、イラクでの戦争、そして、イスラエルとパレスティナの間で続く悲劇的な紛争などーによって、世界の主要な幾つかの宗教の信奉者の間に緊張が高まり悪化の途をたどっていることについての私の憂慮を述べさせていただきたいと思えます。

私達は、固定観念や一般化や先入観を捨て、個人がなす罪のために民族全体、地域全体、そして、宗教全体を貶めることがないように気を付けねばなりません。仏教が教えるように、私達は、悪意や敵意、相手を傷つけようとする気持ちを抑えて自分達の同朋であるすべての人間を平等に、客観的に扱わねばなりません。寛容の気持ちは必須のものですが、それだけでは十分ではありません。私達は、さらに進んで、互いをもっと良く知り、互いの信仰と伝統の中に最良のものを発見しようと積極的な努力をしなければなりません。

異なる宗教と文化を持つ人々の間に信頼と信用を再び築くには息の長い運動が必要です。このウェーサクの日に、その持続的な取り組みに参加する、と誓いましょう。仏教において認識されているように、私達は本質的に相互依存していることを認識しましょう。そして、パートナーとしてこの道を辿りましょう。このようなことを念じつつ、皆様がウェーサクの日を幸福に過ごされますようお祈り致します。

国連事務総長 コフィ・アナン

《 2005年 国連メッセージ 》

ウェーサクの日に寄せる国連事務総長のメッセージ

日付：2005年5月20日 プレスリリース番号：L/18/2005

ブッタの誕生と悟りと入滅を記念するウェーサクの日にあたり心よりご挨拶を申し上げます。この日に私達が祝うブッタの理想は国際連合の理想に近いものです：それは、民族間の理解、調和の追求、平和の促進です。

今回のウェーサクの日は国際連合にとって特別な時にあたります。今年が、第二次世界大戦の終結時に国連が創設されてから60年目の記念すべき年であるというだけではありません。今年、私達が先のことを考えている年、どうしたら貧困を克服することができるか、どうしたら私達の共通の脅威に立ち向かうことができる集団的安全保障システムを作ることができるか、また、どうしたらすべての国に人間の尊厳をもっと尊重させることができるか、について建設的な討論を行っている年でもあります。私は、歴史的な前進、根本的な前進が可能であると信じています。しかし、それは、各国政府の意志に、そして世界中の様々なグループや個人の取り組みにかかっています。

今年のウェーサクの日を記すにあたって、私達の生まれが、私達の人種が、私達の文化が、また、私達の信仰がどのようなものであろうとも、私達は共通の故郷を、そこで私達が共に生きなければならない小さなたった一つの惑星を分かち持っているということを思い出しましょう。世界中の人々の共通の利益と調和に満ちた平和な共存に向かって共に活動する決意を固めましょう。最初にお話した理想のために献身される皆様全員にお礼を申し上げます、ウェーサクの日のお祝いが素晴らしいものとなりますようお祈り致します。

国連事務総長 コフィ・アナン

《国連 メッセージ 2006 年》

国際連合事務総長 コフィ A. アナン

仏陀の誕生、悟り、そして入滅を記念するウェーサクの日に、皆様に心からのご挨拶をお送りすることは私にとって大変嬉しいことです。

この日に祝われる理想は、諸民族間の理解、調和の追求、平和の促進、という国連の理想と近いものです。

国連が、21世紀の難問に立ち向かうことができるように自らを変えようと努力を続け、そして、殊に、昨年9月の2005年世界サミットにおいて指導者達によってなされた約束を実行しようと努力を続けている時に、このウェーサクの日が巡ってきます。再生というこの議題を押し進めることに成功するかどうかは、政府の代表達や各国の役人達にのみ懸かっている訳ではありません。それは、富める国でも貧しい国でも同じく、地球市民として考え行動している投票者、消費者、市民グループやあらゆる年齢の関係個々人に懸かっているのです。

今年のウェーサクの日を記念するに際して、私達は本質的に相互に依存しているのだということを、仏教が認めているように認めましょう。そして、世界のすべての人々の共通の利益に向かって、また、調和のとれた平和な共存のために、共に働く決意を固めましょう。皆様のこれらの理想への献身に御礼を申し上げるとともに、ウェーサクの日の祝賀式典が素晴らしいものとなりますようにお祈り致します。

国連事務総長 コフィ A. アナン

《国連メッセージ 2007 年》

ウェーサクの日にあたってのメッセージ
バンコク、2007 年 5 月 27 日

(アジア太平洋経済社会委員会事務局長 キム ハク-ス氏による代読)

ゴータマ・ブッダの誕生、覚醒、涅槃をお祝いするこの機会にあいさつを送れますことをうれしく思っております。

2500 年以上にわたって仏陀の教えは、世界中の非常に多くの人々を導き、その人生に意味を与え続けてきました。このウェーサクの日という毎年のお祝いは、仏陀の教えに従う人たちに、仏陀が説かれた慈悲、智慧、平和という行動指針にあらためて光を当て、それらの理想に向かって献身的に努力する気持ちを再確認する機会を与えてくれます。

これらの徳は時を越えたものですが、これらの徳を祝う今日のお祝いは、まさしく時を得たものです。近年の様々な出来事は、地域社会と国家との間の隔たりをますます大きくしております。不寛容と異文化間の緊張が不安になるほどの高まりを見せてきております。こうした流れを逆転させることが、私たちの世界に長期の平和と安定をもたらすために絶対に必要となっております。

そのためには、私たち一人一人が自分たちの狭い短期的な自己利益を超えて考えていかねばなりません。仏陀が教えているように、私たちは自らの言葉と行動に十分に気を配り、私たちの周りの人々に私たちの言葉や行動がどのような影響を及ぼすかを考えなければなりません。私たちは私たちが本質的に相互に依存していることを認識しなければなりません。私たちの社会の幸福、人類全体の幸福は私たち自身の幸福と等しいのです。

ウェーサクのこの日に、仏教徒も仏教徒でない人たちも同じように、憎しみや悪意を持つことなく、私たちの仲間である様々な人々と寛大に客観的に付き合いしていくことを決意しようではありませんか。毎日、私たち自身と私たちの世界の双方をより良くしていく努力をしていきましょう。その思いを胸に、ウェーサクの日が皆様方にとってこの上なく心豊かな日となりますことを願っております。

国連事務総長 潘基文(パン・ギムン)

《国連メッセージ 2008 年》

《この困難な時期に仏陀の教えから
生きる上での指針を考え直す必要があります。》

潘基文(パン・ギムン)国連事務総長からのメッセージ

ウェーサクの日は仏陀の誕生、成道、涅槃を祝う喜ばしい行事です。この日、仏教徒も非仏教徒とも一様に仏陀の生涯と教えに思いを巡らせ、仏陀の教えから生きる上での指針を考え直す必要があります。

不幸なことに、今年のウェーサク祭は困難で辛い喪失を伴う時期に当たってしまいました。サイクロンがミャンマーを襲い、大規模な地震が南西中国一帯を揺るがせました。この二つの災害が想像も付かない苦しみを生む結果をもたらしました。何万人もの人々が命を奪われ、さらに多くの人々が家族、住居、生活用具を失いました。

この途方もなく大きな悲劇の間の中で、すべての本質としての平和、慈悲、愛を説く仏陀のメッセージは至急に求められるものでしょう。それは我々の心を開き、また、我々人類の仲間、特に必要としている人々に伝えられるべきものです。それは本質的に我々が一体であることを認めるよう、また、すべてのコミュニティや全人類の幸福は我々自身の幸福の一部なのだということを認めるよう求めます。これら永遠の教えはミャンマーの状況に対して手を差し伸べるように国際社会を導くのです。

それらはまた、世界が直面する難問を解決する努力を惜しまないように我々を鼓舞するのです。すべての地域における環境保護を進展させる上での平和と安全を考えると、我々は恵まれない地域の限られた利益を認識し、国際社会のメンバーとして取るべき行動について考えるべきです。これは悟りのひとつであり、すべての人々にとってよりよい世界の基盤となるものです。

このウェーサクの日に、本質的な自立を獲得することを支持しましょう。全人類にとっての共通の利益と発展向上のために共に努めることを誓いましょう。私は皆さんがこの考えに賛同して下さることに感謝すると共に、皆さんの式典のご成功を祈ります。ご清聴有難うございました。

国連事務総長 潘基文(パン・ギムン)